

第 9 0 2 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 4 年 8 月 2 9 日（月） 9：30～

場 所 益田市立市民学習センター研修室 2 0 2

益田市教育委員会

第 9 0 2 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 4 年 8 月 2 9 日（月） 9 時 3 0 分～

招 集 場 所 益田市立市民学習センター研修室 2 0 2

議事日程

第 1 会議録の承認について

第 2 教育長報告

第 3 議題

報第 1 9 号 特別教室へのエアコン移設・新設について

報第 2 0 号 夏休み！算数・数学パワーアップ教室の開催状況について

報第 2 1 号 令和 4 年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

第 4 その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

高 市 和 則
梅 津 富美子
中 野 純
大 庭 隆 志
齋 藤 哲 瑯

事務局職員

教 育 部 長
ひとづくり推進監
教 育 総 務 課 長
学 校 教 育 課 長
学 校 教 育 課 参 事
美 都 分 室 長
匹 見 分 室 長
人権・同和教育推進室
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課 主 事

長 嶺 勝 良
大 畑 伸 幸
志 田 原 涉
田 原 正 紀
松 元 善 生
田 中 一 史
齋 藤 一 臣
岡 崎 勝
齋 藤 勝 義
三 浦 菜々子

高市教育長 ただいまより第902回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

高市教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

高市教育長 次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況でございます。

8月1日でございます。市制施行70周年アンバサダー委嘱状交付式、またその後市制施行70周年懸垂幕の掲揚式を行いました。懸垂幕につきましては、皆様ご承知のとおり、市役所正面に飾っております。市制70周年に関します祝賀会につきましては、11月3日に予定をされています。

続きまして、8月2日でございます。県立大学支援協議会総会に出席をしてまいりました。こちらは、浜田市にキャンパスを置かれております県立大の支援をする会合で、それに併せまして県立大から、日常的に行われている活動等々についてもご説明をいただいたところでございます。

続きまして、8月5日でございます。こちら、委員の皆様にもご出席をいただきましたが、益田・鹿足教育委員会連合会研修会をさせていただきます。

続きまして、8月6日、7日でございます。こちら、広島尾道市におきまして囲碁サミット2022が開催をされました。この囲碁サミットにつきましては、囲碁について様々な形で取り組まれている市町村が参加をして、持ち回りで開催をしているものでございます。昨年度はたしか宮崎市で予定をされておりましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で中止ということになりまして、囲碁サミットも約3年ぶりに開催をされました。この会議につきましては、全国から11の市が参加をされておりました。次回は倉敷市において開催をされるようです。開催をされました尾道市ですけれども、囲碁を市技、市の技と制定をされているということで、幼少期から囲碁に触れる機会を積極的に学校教育の中にも取り込まれていらっしゃるということです。この囲碁サミットに合わせまして、過去の本因坊秀策という有名な棋士の方が尾道出身だということで、その方

に関連した囲碁のお祭りをされているということです。当日には日本棋院また関西棋院からプロの棋士の方がいらっしゃっていて、プロ棋士の方とトーナメントを勝ち上がったアマチュアの方が囲碁を打てるということで、全国各地から囲碁ファンが集まっていたらいいと思います。

続きまして、8月9日でございます。石西地区人権同和教育研究集会が開催されました。こちらにつきましては、例年ですとほぼ1日を使って、講演と事例紹介という2部構成になってございましたが、昨年、今年度と新型コロナウイルス感染症の影響もございまして、昨年度は記念講演だけ、今年度につきましては事例紹介だけ実施されました。当日は、社会教育という立場から社会福祉法人E.G.Fさんから事例紹介、また学校教育という立場から吉賀町の七日市小学校から事例紹介をいただきました。直接会場に集まる方と、あとはオンラインでつないで参加をした方がいらっしゃいましたが、全体としては400人を超える参加者になり、先ほど申し上げた事例を基に人権同和教育について意見交換をし、考え方を深めることができました。

続きまして、8月15日でございます。こちら、前回教育委員会でもご報告させていただきましたが、算数・数学パワーアップ教室を開催いたしました。実際は15日からの5日間実施いたしました。後ほど詳しく担当から結果について報告がありますが、島根大学の学生さんと松江高専の学生さん合わせて15名、また児童・生徒ともそれぞれ30名以上参加をしていただきました。

続きまして、8月18日でございます。教育委員会外部評価委員会、2回目を開催しました。こちらの会議で、我々が行いました自己評価について、外部の立場からご評価をいただきました。その評価結果につきましては、今、取りまとめをしているところでございますが、9月の議会においてご報告をし、また9月以降の教育委員会においても外部評価の結果について改めてご報告をさせていただきたいと考えております。

続きまして、8月22日でございます。島根県公・私立高等学校教育連絡協議会に出席をいたしました。こちらにつきましては、来年度の生徒募集、選抜に関することで議論をいたしました。

続きまして、8月28日でございます。日中国交正常化50周年記念青少年オンライン交流事業に参加をしてきたところでございます。こちらにつきましては、益田高校の合唱部、また益田市と姉妹都市になっております中国の寧波市にあります寧波市職業技術中心学校の合唱部とでオンラインを通じて合唱、歌で交流をするといっ

たものでございました。先ほども申し上げました寧波市の職業技術中心学校の合唱部ですけれども、グラントワで行われておりますグラントワ・カンタートにも出席をされている合唱団でございます。益田高校の合唱部は全員女子生徒で、反対に寧波市の合唱団は全員男性で、それぞれ非常に特徴的だと感じました。それぞれ3曲ずつ合唱を披露いたしまして、そのうち1曲につきましては相手側の国の歌を歌いました。ですので、寧波市のほうですと日本の「ふるさと」を歌っていただいて、また益田高校の側は中国の「茉莉花」という歌を披露しておりました。最後に両校、両国合わせて「蛍の光」を歌うという形でオンラインを通じて文化交流を進めたところでございます。

私からは以上でございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

第3 議題

○報第19号 特別教室へのエアコン移設・新設について

高市教育長

本日は3件の報告事項となっています。

まず初めに報第19号 特別教室へのエアコン移設・新設についてから進めさせていただければと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

齋藤補佐

改めまして、おはようございます。

私のほうからは、報告第19号特別教室へのエアコン移設・新設についてということで、資料に基づきましてご説明させていただければと思います。

まず、特別教室へのエアコンの移設・新設ということで、現状また方向性などをまとめましたので、こちらを説明させていただきます。

まず、平成30年、また令和元年、この2年間で市内の小・中学校普通教室へのエアコン設置ということにつきまして取り組んできました。耐震化の関係で先んじてエアコンを設置しておりました益田中学校につきましては機器の能力の低下も見られる中で、適正な温度に教室の環境になるように機器の更新に現在取り組んでおります。これが完了いたしましたら市内小・中学校の普通教室へのエアコン設置が完了する予定です。

また、文科省が定めます学校環境の衛生基準、今回改正を少しされましたけれども、温度につきましては18度以上28度以下に保

つことが望ましいということにされております。その中で、現在の特別教室、やはり面積が広い音楽室、理科室、家庭科室、図書室、そういった教室につきましてはエアコンがない中で30度を超えるような環境が続いています。扇風機などの活用によって対処していますが、やはり児童・生徒の熱中症等の対策が課題になっています。これを受けまして、児童・生徒数の減少で学校の施設の中で空きになった教室、またICTの関係で使う機会が減ったパソコンルームなどに設置している移設可能なエアコンがないか、各学校に対して調査を先般、実施をして参りました。

併せまして、設置に当たって検討しなければならない有利な財源確保でございます。公立学校の施設整備の中では、普通教室、特別教室、体育館へのエアコン設置に向けた国の補助金というものがあります。学校施設の環境改善交付金というところで、算定割合は3分の1出ます。また、1校あたり400万円が下限額という条件になっております。これらは、空調機器の新設・移設全てに対して国の補助金を活用できるのか確認をしているような状況です。

これらを受けまして、2番目になります、特別教室へのエアコン設置に向けた方向性というところで。

まず、学校内に、先ほど言いました調査の結果を踏まえまして、移設可能なエアコンがあると回答した学校については移設経費のみで設置ができますので、早々にその概算額を積算し、対応してまいりたいと考えております。

また、全ての教室に設置をすることになりますと、なかなか予算としてかなり難しい部分もあります。そういったところを踏まえまして、各学校との調整を踏まえた2室に設置することを基本といたしまして、既に設置されている学校との均衡性や設置状況などを踏まえまして調整を行う方針です。

3に、移設また新設についてというところで。教育委員会としては、各学校に導入の状況を確認して、その上で、本年度はなかなか難しいですが、次年度の国の補助金等の有益な財源を活用した設置を行っていきたいと考えています。

最後に、特別教室への移設・新設への対応についてということになります。

市内小・中学校23校、また匹見の小・中学校は1校とみなしますが、そのうち近年改築を行った桂平小学校、中西小学校、また現在改築中であります真砂小学校、こちらを除く20校を対象として調査を実施をいたしました。この結果を踏まえまして、機器の移設により対応が可能な学校から早期に対応してまいりたいと考えてい

ます。

また、移設できるエアコンがないが、機器の新設が必要という結論が出た学校につきましては、先ほど言いました国の補助金を有効に活用いたしまして、来年度当初予算に計上を目指して、早々の実施を見込んでいきたいと考えています。

一応、移設に関しましては、9月議会市議会定例会のほうに補正予算のほうを計上しております。今のところ、対象校5校の設置、移設です。それ以外の学校につきましては来年度予算というところになります。来年度予算と言いつつも、予算がつき次第すぐに設置に向けた取組をしていきたいと考えているところです。

説明は以上です。

高市教育長

ありがとうございます。そうしましたら、本件につきましてご質問、コメント等ございましたらお願いいたします。

中野委員

失礼いたします。今回こういった形で特別教室への移設・新設という議題が出たということで、非常に有り難く思っております。実は私、吉田小学校の学校評議員のほうも務めておりまして、校長先生から、各教室にはあるのですが特別教室になくて、子供たちが大変な思いをしていると伺っていました。移動式の扇風機あるいはエアコンを整備しなければならないかもしれないと相談を受けたことがありました。結論はどうなったかは分からないところもあるのですが、やはりそういった環境下で授業を受けるというのはなかなか集中力が欠けることも考えられるので、そういった議題が出て進めているということが、非常に有り難いと思いましたのでコメントとさせていただきます。ありがとうございます。

また併せてお聞かせください。今年度の対象校が5校ということでありましたが、差し支えなければどちらの学校なのか教えていただきたいです。

齋藤補佐

お世話になっております。お答えさせていただきます。

本年度、9月補正に上げている5校につきましては、中学校が1校、小学校4校でございます。学校名といたしまして、益田小学校、鎌手小学校、西益田小学校、匹見小・中学校、美都中学校が1中学校というふうになっております。

以上です。

中野委員

ありがとうございました。

高市教育長

ありがとうございます。それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

○報第20号 夏休み！算数・数学パワーアップ教室の開催状況について

高市教育長 続きまして、報第20号 夏休み！算数・数学パワーアップ教室の開催状況についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

松元参事 よろしく申し上げます。

資料をご覧ください。

夏休み！算数・数学パワーアップ教室の報告をさせていただきます。

これは以前の定例教育委員会でもお知らせしたものです。

期日のほうは特に変更なく8月15日から19日の5日間で行いました。

場所は、お知らせしたとおり、市民学習センター、安田公民館、ふれあいホールみとにて開催しました。

最初の3日間は市民学習センターで、最後の2日間は安田公民館、ふれあいホールみとにてそれぞれ分かれて実施しました。

参加者ですが、以前お知らせした人数と若干変更があります。島根大学、松江高専の学生なのですが、当初島根大学の学生が15名参加予定でありましたが、コロナの影響があり13名となりました。松江高専の学生は2名ということで変わりなく、合わせて15名の参加と変更になりました。

(2) 番の小・中学生の申込者数なのですが、最終的には32名の小学生、35名の中学生で行いました。

②番の会場別人数なのですが、これは会場別に来る子、来ない子がいろいろいますので、延べ人数という形でお知らせしています。内訳は、最初の3日間の市民学習センターで、小学生が51名、中学校が37名、合わせて88名の参加でした。それから、最後2日間に分かれた安田公民館の参加については、延べ小学生が2日間で17名、中学生が13名、合わせて30名。それから、ふれあいホールみとの2日間では、小学生が19名、中学生が22名、合わせて41名の参加でした。延べにしますと5日間で159名の参加となっております。

活動内容なのですが、別紙資料をご覧ください。色がついていますが、今回大幅な変更を加えたのは、大学生により積極的に運営、計画に関わってもらった点です。

全ての学生に内容を考えてもらい、それを実際に授業してもらうという活動を入れておりました。それが表中では黄色のところになります。それから、それぞれ市教委が運営するコマでは、前回同様プログラミング学習を行ったことと、あとは算数ウォークラリーと

言いまして、子供の興味関心が湧くような問題を作って、それを順番に場所を変えて解いてレベルが進んでいくという、こういった活動をやってみました。それから、大学生との交流活動では、協働のひとづくり推進課とも連携して語り場のような、トークフォークダンスと名づけましたが、子供が短時間で順番に変わっていった、大学生と小・中学生がトークしていく活動を行いました。

それでは、もう一度レジュメのほうにお返りください。

アンケート結果なのですが、終わった後に取ったアンケートでは、肯定的評価の割合というところで、こういった結果となりました。下は大学生のアンケート結果ですが、15名、これは肯定的評価ということで全て100%となりました。

アンケートの結果も交えての感想なのですが、子供たちは普段、塾や学校の先生から学習を受けるのですが、大学生という立場で共に学び、関わってもらふということは非常によい効果があるのではないかと思います。それから、特に前回も今回も感じましたが、難しい問題があったときに何となく諦めがちな子も、ほぼマンツーマンに近い形で関わられたので、そういった子どもに対してフォローできると感じました。そして、今回初めて周辺部の、美都会場、安田会場でも開催しました。市民学習センターから遠い校区に住んでいる子どももより参加しやすいとお聞きしました。実際ふれあいホールみとに立ち合いに行きましたが、美都中の生徒が1日に18名来てくれました。かなり多くの生徒に関わっていただいて、様々な地域で開催することは子供の学びやすさ、通いやすさにつながると感じました。

前回3日間でしたが、今回5日間に延ばしてみました。途中、教育委員さんの応援をいただいて、見守っていただきました。大変ありがとうございました。

簡単ではありますが、内容の報告とさせていただきます。

高市教育長

ありがとうございました。

では、本件につきましてコメント、ご質問等ございましたらお願いいたします。

梅津委員

このたびふれあいホールみとのほうでも2日間やっていただいて、美都周辺の児童生徒数はすごく少ないですけども、多数参加されていて良かったです。まだ市内の学校23校中、生徒が参加していない学校もまだあると思うので、近所で開催されていると親しみやすいし出てみようという意欲がわきやすいと思うので、ほかの地区でもまた同じようにやっていただけたらいいと思います。

そして、学生さん、島根大学や高専の学生さんは、最初から継続

して参加されておられる方がどのぐらいいらっしゃるのか、お聞きしたいです。

松元参事

ありがとうございます。まず、最初のご意見についてですが、前回の教育委員会でもご指摘、ご助言いただいたとおり、また周辺部のいろいろな会場での開催も順番に考えていきたいと思っております。

それから、前回参加した学生が何人いるかということですが、今回はゼロでした。実は昨年夏と冬で継続した学生がいたのですが、先般また島根大学にお礼を申し上げに行ったときに、島大の担当部課が前回参加していない子を選んで優先的に参加させたとおっしゃっていました。ですが、こちらとしては継続的に参加していただきたいという思いもありますので、次回開催するときにはしっかり継続してきていただける子、それから新規に開拓する子とバランスよく来ていただけるように心がけていきたいと思います。

以上です。

梅津委員
高市教育長
大庭委員

ありがとうございます。

ほかございますでしょうか。

3点ほどお願いします。

まず、1点目ですけども、アンケート結果を見ていますが、中学生の2名がアンケートに答えていないように見えるのですが、その理由を教えてください。2点目ですが、この中学生が答えたアンケートの2問目、参加する前よりも算数・数学が好きになったと答えた割合が88%になっています。人数でいうと多分29人が好きになったと答えたのだと思います。そうしますと、全体で33名ですから4名ほどが数学を好きにならなかったということなのですが、どのような原因が考えられるかもし分かれば教えてください。また3点目ですが、別の問いの算数・数学の問題を解くことが楽しかったと答えている生徒は97%、人数にしたら33人中32名だと思いますが、そうすると好きにならなかった生徒4名のうち、3名は楽しかったと言っているのだと読み取れます。この状況をどう見てらっしゃるのか教えてください。

以上のことをこのアンケート結果から疑問に思いましたので、分かる範囲で結構ですけど、お答えいただきたいと思います。よろしくお願いします。

松元参事

ありがとうございます。まず、1つ目のアンケートに答えていない中学生についてです。

これは、実は5日間開催する中で、Aさんがいるとすると、Aさんは3日しか参加しなかった、Bさんは最後の2日間だけ参加した

というように、様々なパターンがありました。明日も来ると聞いていたので、明日アンケートに答えてもらおうと思ったのですが、実はその日来なかったということがありました。詳細にはなかなか申し上げられませんが、申込みされた方も全員来られているわけではなくて、理由は分かりませんが来なかった子もいました。それで回答しなかった子が二人出てしまったということです。

それから、2, 3点目に関してですが、参加する前よりも算数・数学が好きになったと答えた子供がいたということに関してですが、おっしゃっていただいたように楽しかったという経験を積んでいただけだと思っておりますが、それは楽しかったのだけでも算数・数学が好きというところにはつながらなかったということがあるのではないかとお話を聞いていて思いました。もしそのような場合があるとするならば、我々としては活動の内容をもう少し工夫する必要がありますと思います。現在は、先ほどの活動の中にお示したように、子どもたちが自分で持ってきた課題と大学生が考えた内容、それからプログラミングや算数ウォークラリーなどを行いました。こういった子どもの興味関心がわくようなことに取り組んだつもりですが、それが必ずしもアンケート結果につながっていないとするならば、それはより詳細を分析する必要があるとお聞きしながら思ったところ です。

以上です。

大庭委員
高市教育長

ありがとうございました。

では、算数・数学パワーアップ教室につきましては、今年度も冬期休業中、また春の春期休業中にもございますので、教育委員の方々にまたご覧いただければと思います。

松元参事

今教育長が申し上げられたことに補足ですが、冬と春の予定です。またご案内したいと思いますが、現時点では冬は12月25日日曜日から3日間開催する予定です。それから、春は3月27日月曜日、ここから3日間開催する予定です。現在島根大学とはこの日程で調整がついておりますが、また事情が変わり変更しましたら報告いたします。

もう一点だけ言い忘れました。同時に島大と高専の学生の皆さんに対して、益田魅力体験ツアーというものを行いました。匹見町に行って、寝泊まりしていただいて、匹見こいこい祭りにも参加していただきました。益田市まちづくりコーディネーターの石橋さんにお世話になりました。あと実行委員会の渡辺さんにもお話をお聞きして、神楽や益田の魅力、匹見の魅力についてお話を聞かせていただきました。

以上です。

高市教育長 ありがとうございます。

齋藤委員 1 ついいですか。このパワーアップ教室 3 回分で予算はおおよそいくらなのでしょう。

松元参事 3 回まとめると、約 5 0 0 万円です。

齋藤委員 わかりました。

高市教育長 どうも今、大学の学生さんは非常に忙しいようでして、私が大学生の頃は暇であらかた休みだったようなものですが、どうもかなりぎりぎりまで授業、テストということがあり、なかなか日程が自由に設定をしづらく、事前に大学側の全体のカリキュラムと合わせて調整をさせていただきました。また、委員の皆様もご都合がよろしければ、ぜひのぞいて、学生さん、また参加している児童・生徒の激励をしていただければというふうに思います。

中野委員 1 点いいですか。今、事前に春と冬の日程が分かりましたので、参加したくてもなかなか行けない生徒への支援として、オンライン等で参加ということができないものかと考えております。せっかくタブレット等の支給もありますので、再検討いただきたいです。通信等で大変なこともあると思いますが、そういったフォローも必要ではないかと思いました。

以上です。

松元参事 貴重なご意見ありがとうございます。周辺部の開催を含めて、併せて検討させていただきますので、よろしくお願いいたします。

高市教育長 ありがとうございます。それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○報第 2 1 号 令和 4 年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

高市教育長 続きまして、報第 2 1 号 令和 4 年度全国学力・学習状況調査結果の概要についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

松元参事 それでは、よろしくお願いします。令和 4 年度学力調査結果についての資料をご覧ください。

4 月に行われました全国学力・学習状況調査についての報告です。

まず、お知らせする前にひとつお願いがあります。例年は最後の欄に対応についてということを示しております。ですが、今回の資料は、速報という形でお示しさせていただいて、詳細な分析や対応については作業を進めているところです。ですから、そういったことを踏まえていただいて、まずは一旦結果をお知らせしようと速報を出させていただきました。詳細の分析、対応については、また改

めてお知らせしたいと考えておりますので、よろしくお願いします。
速報ということで、ご覧いただければと思います。

全部は読みませんが、まず、めくっていただきまして、1 ページ、学力調査の目的は標記のとおりです。実施日は4月19日火曜日です。

3の調査の内容ですが、今回の調査は例年の国語、算数・数学に加えて理科を実施しております。理科や英語については3年に1回行いますので、毎年行うものではありません。実施人数は標記のとおりです。

概要を説明させていただきます。

2ページをご覧ください。

2ページのⅣの上に、まず全体を通した結果の概要、主なところをお示ししております。ここでまず確認して、あとで細かくそれぞれお伝えします。

各教科、つまりこれは国語、算数・数学、理科の3教科になりますが、各教科平均正答率について、まず小6の国語、それから理科については全国平均を2から3ポイント下回っております。これは、県平均とほぼ同水準でありました。それから、一方算数科については全国平均と同水準で、県平均を2ポイント程度上回っております。それから、中3については、国語、数学、理科ともに全国平均及び県平均を2から6ポイント下回っております。それから、領域云々に関しては、ここのまとめに書いております。小6算数については、全ての領域で県平均を上回っており、全国平均と同水準になっております。それから、中3の国語については、全ての領域で全国平均、県平均を下回るという主な結果であります。

それで、今概要をお伝えした結果なのですが、資料に書いていませんが補足すると、小学校6年生に関しては過去5年間を遡って見たところ、国語については過去5年間で一番差が縮まっており、改善傾向にあることが分かりました。それから、算数・数学科については、過去5年間を見たときに、これまで全て全国平均を下回っていましたが、今回初めて同水準になりました。それから、理科に関しては、平成30年、それから平成27年に以前行われているのですが、それと比較して平成30年はマイナス6ポイントだったものが今回はマイナス2ポイントというところで、これも改善傾向であるというところが見えました。

それから、中学3年生に関して言いますと、国語、算数・数学、理科なのですが、昨年の数字から比べたときに、児童・生徒が違いますので一概に言えませんが、昨年に比べると差が縮まり改善傾向

ということが見られております。それから、過去、令和3年、令和2年は行っていませんが、令和元年、3年前と比較しても、年数を経るにつれて差が縮まっている結果は見えています。

では、各教科、大まかなところになりますがお伝えします。

2ページの、まず表、IVの2の各教科の正答数分布状況と解答状況から特に課題の見られた設問をご覧ください。

この表については、それぞれ3ポイント以上上回るものに丸、一方3ポイント以上下回るものについて三角をつけております。これについては、まず小学校6年国語については、このような結果で、全体では全国より3ポイント低い結果でありましたが、それぞれの観点では三角がついている内容もあります。一方で、県とはほぼ同水準という結果になりました。

それで、3ページをご覧ください。

3ページは、小学校6年生、算数になります。

算数については、近年では初めて全国平均とほぼ同水準となっているところでもあります。そういったこともあり、特に課題が見られた設問は全国と比べてということで課題を書いているのですけども、大きく課題になる設問は無かったという結果になりました。特に益田市と県、全国と比べたときに、プラスが目立つ図形の領域という範囲があります。図形が全国と比べてプラス1、県と比べてプラス4、これはプログラミングの問題でした。例えば三角形の図形を書くときに、どのような指示を出せばその図形が書けるのかを考える問題で、今回初めて問題が出たのですが、一定の成果が見られたという結果にはなりました。

それから、小学校理科、4ページをご覧ください。

4ページからは小学校理科になります。

これは、今回は平成30年度ですので、久しぶりの理科に関する調査となります。全国平均と比べたときに、その中の粒子、それから地球を柱とする領域については3ポイントのマイナスが見られました。県とは点数の上ではほぼ同水準ですが、そういった傾向となっております。

それから、5ページをご覧ください。

5ページは中学校3年生の国語になります。

国語については、全国と比べて平均正答率は4ポイント、県と比べても4ポイント下回っております。それぞれ各内容についても大体2から6ポイントの差があります。

それから、6ページをご覧ください。

6ページは中学校3年、数学になります。

この数学については、先ほども少し触れましたけども、全国からマイナス6ポイント、県とはマイナス4ポイントという正答率となっております。昨年と比べて、その差は縮まっているという傾向はお伝えしたとおりですが、まだ依然として差があります。特に図形の範囲は差が大きく、具体的には図形の合同になる時どのような条件を満たしているのか、それを筋道に沿って説明するというものが苦手ようです。

それから、7ページをご覧ください。

7ページは、中学校理科になります。

理科は、お伝えしたように平成30年以降の調査ですので、このような結果となっております。全国と比較すると平均正答率でマイナス4ポイント、県と比べてマイナス2ポイントというところがありました。

それから一方、意識調査であります。児童・生徒質問紙と言われるものです。

8ページをご覧ください。

8ページが児童・生徒質問紙になります。

ここでは益田市の第6次総合振興計画に掲げているKPIや以前も教育委員の皆さんに見ていただいた教育委員会の事業別評価に載せている指標を中心に掲載しています。

学校に行くのが楽しいですかという質問に対しては、小学校は改善傾向ではありますが、まだ少し国と県と差があるという状況であります。中3に関しては令和3年度から数値は変わりませんでした。

それから、(2)番、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦することについては、今回は小学校72%、中学校は69%というところで、前回の数字は上回っているものの、まだ全国と若干の違いがあることが見えてきました。

それから、ページをめくっていただいて、9ページになります。

9ページに、(4)、(5)、(6)のところで、国語、算数・数学、理科の授業はよく分かるかどうかと聞いています。これに関しては、よく分かる、理解できると答えている子どもの割合が低く、県、それから全国と差が大きいというのが現状です。8ポイントから10ポイントぐらい違いがあり、理解できるかどうか当然一番求められるところですので、それについては改善することに意義があると思っています。

それから、10ページをご覧ください。

10ページは、(7)ICTの活用についてです。

これは、これまでの授業でICTをどの程度活用したかという問

いで、週1回以上と答えた割合を示しています。これまで週1回以上の割合を基準にして指標をとっておりますので、そういった意味で今回も週1回を基準にしております。ただ、今回は質問の聞き方が微妙に違って、これまでは、あなたの学校でコンピューターなどのICT機器を使用していますかと聞いていました。ですが、ご存じのようにタブレット端末が子どもたちに配付されたということを受けて、今回は聞き方が、PC・タブレットなどのICT機器という文面に変わっています。この問いに関しては、前回は上回っているものの、小学校に関しては県平均、全国平均を共に下回っております。それから、中学生に関しては、県平均は上回っているものの全国は下回ったというところがありました。以前お伝えしたようにそういったネット環境などのいろいろな整備に不具合があったことを踏まえて今年度は改善する予定ですので、さらに推し進めていきたいと考えているところです。

それから、(8)番、平日の家庭学習時間についてです。

これは、平日に1時間以上勉強する児童・生徒の割合を示しています。小学校に関しては、全国平均、県平均を4から5ポイント上回っているというところがありました。それから、中3に関しては全国平均も県平均も大きく下回っていることが見て取れます。

これに関しても、差については去年より縮まってはいますが、まだ大きな差が開いているということが課題ですので、引き続き対策をしていく必要があると思っています。

最後、(9)番、平日どのぐらいの時間テレビゲームなどをしてますかという質問についてです。

これは、例年どおり2時間以上を掲げているところです。こう見たところ、小学校については市内平均が55%というところで、昨年を上回り、全国、県とも差があるという状況です。中3に関しては、去年よりは下がり、ほぼ全国と同水準になりましたが、県よりは高いという結果が出ています。これについては、まだそれぞれ啓発する余地が残っていると考えています。ここでは、2時間以上と答えた子どもたちの割合を示しており、県や全国よりも高い割合となっております。しかし詳しく中身を見ていくと、1時間以上ゲームをしている児童生徒の割合は、県や全国よりも低い割合です。また4時間以上ゲームをやっている割合も全国より少ない割合になっています。益田市は、ゲームを全くしない子も多く、ヘビーユーザーといえますか、4時間以上ゲームをしている子も少ないのです。ただ、2時間以上3時間以下と答える割合が多く、中間層が多いのが益田市の課題です。

駆け足でお伝えしましたが、概要となっております。よろしくお願いいたします。

高市教育長

ありがとうございました。

そうしましたら、本件につきましてご質問、コメント等ございましたらお願いいたします。

梅津委員

9 ページのところで、授業がよく分かるかという問いですけど、中学3年の数学以外は昨年よりマイナスになっているのは問題だと思いました。

2 ページの小学校6年の話すこと、聞くこと、書くこと、読むことが全国平均と比較した時にマイナスであって、中学3年になると差がさらに大きくなっています。今問題になっているメディアコントロールの取組が一層問われるのではないかと感じました。

高市教育長

ありがとうございます。

松元参事

ありがとうございます。先ほどおっしゃっていただいた、授業がよく分かると答えた割合が小さくなっているところが、数年に1回の調査ではあるものの、理数系人材を育てていく益田市にとって改善すべき課題ですので、そこを含めて取り組む必要があると認識しています。

高市教育長

ありがとうございました。ほかございますでしょうか。

大庭委員

まず、2点訂正をお願いしたいです。5 ページの中学3年生の国語ですけども、益田市と全国を比べたときの欄に三角が書かれています。しかし、差がマイナス2ですので、マイナス3以上の三角は削除すべきだと思います。

それから、柱状グラフの縦軸が中学生の場合も児童の割合とありますが、中学生ですから生徒の割合という表記の方がいいと思いました。その2点ほど、訂正をお願いしたいと思います。

それで、内容で少し申し上げたいのですが、まずこれ、小学校と中学校を比較した時、小学校の国語、算数、理科と、中学校の国語はほぼ6割から7割の間のポイントがありますが、中学校の理科、数学に関しては、4割代から5割代になります。益田市も県も全国も数学、理科の正答率が5割程度で、少し問題が難しかったのではないかという受け止め方をいたしました。それに対して、先ほど言いましたように、中学校の国語、小学校の国語、算数、理科の正答率が6割台になっております。そういった中で、特に中学校の数学については物事を数学的に考えて文章や式を使って論理的に説明する、そういった力が不足しているのではないかと思います。理科については、科学的、論理的に事象を捉えて合理的に説明する、そういった力が不足しているのではないかと思います。ですから、

そういった力をつけることで全体の底上げをしていくことが必要じゃないかと思っております。これは、益田市の課題だけじゃなくて、県も全国も同じだと思います。そのような印象を持ちました。

そういった中で、少し気になったのは、今後のことです。8ページをご覧ください。8ページで、学校に行くのが楽しいと思いますかという質問に対しての回答ですが、なぜ全国や県に比べて学校に行くことを楽しく思っていない児童や生徒が益田市に多いのか、その原因は何かということがすごく気になりました。そういった中で、学校に行くのが楽しいと思いますかというグラフのところで、このグラフで小6として答えている子どもたちが2年後には調査対象の中3となります。そうすると、2年後の調査をしたときに、数字的にこういったデータが出てくるかがすごく気になるところです。

それから、9ページをご覧ください。

9ページは、授業がよく分かるかどうかという質問の結果が示されていますが、この棒グラフを見たときに、教科が違うグラフですが3つとも似たような傾向にある印象を持ちました。そういった感想を持ったので、よく分かる魅力的な授業について、教師の指導の在り方、これをいま一度振り返ってみる必要があるのではないかと、この9ページ全体のグラフから感じました。

それと、最後になりますが、10ページの(8)、平日の家庭学習時間が一時間以上あるかに関するグラフなのですが、今年度の中学3年生は47ポイントとなっています。これは、全国や県に比べてかなり低い値で、こういったデータを見たときに、中学3年生の学力の結果と中学3年の家庭での学習状況で相関性をすごく感じます。

以上、感想や意見を言わせてもらいました。

ありがとうございます。

貴重なご指摘ありがとうございます。

全てのご感想にお答えできるかどうか分かりませんが、先ほどおっしゃったように、授業が分からないという子は意欲が低いということについては同じように危機感を持っておりまして、先ほどの学校が楽しいということにもつながるのですが、授業改善というのが大切になってくると考えています。授業をどう実現させていくかというところを、今度2回目の学校訪問が始まるのですが、その中で全教職員が参加して協議するという形をしっかりと位置づけて、同じテーマで市内の全教職員が関わっていくという取組を強化しているところでありまして。授業というものが1日の学校生活時間のなかで長い時間を占めていますので、その授業の充実なくしては学力の改善ありませんので、努力していきたいと考えています。

高市教育長
松元参事

それから、家庭学習についてもご指摘いただきました。家庭学習についても、やはり若干の改善が見られるものの、中学校を中心にまだ改善の途中だと考えています。調査を受けている子供は違うのですが、傾向としては昨年の数字よりは改善されているものの、例えば30分未満または全くしないという生徒の割合が全国よりも高いという傾向が見えています。益田市の傾向として30分から1時間ぐらい勉強するというのが、この中3生の中で一番割合が多いです。1時間以上という目標に掲げている数値を達成できていない生徒の割合が高いことは問題だと思っています。全くしない子供の割合は改善傾向ですが、まだ十分改善していないのは見えていますので、引き続きまた努力をしていく、指導していくところであります。

以上です。

大庭委員

特に9ページのところのグラフを見たときに、国語のみ、あるいは算数のみ、理科のみではなく、全ての教科が同じような傾向をしめしています。ぜひこのデータを視覚的に現場の教員に示していただいて、ぜひ授業改善の動機づけを図っていただきたいと思います。

以上です。

高市教育長

ありがとうございました。

松元参事

しっかり周知していきたいと思います。ありがとうございます。

齋藤委員

幾つか伺いたいのですが、これは毎年行っている調査ですね。昨年と同じ児童・生徒が令和4年度の調査対象だったわけではありませんよね。

松元参事

同じ児童・生徒が対象ではありません。これは、小学校6年生と中学3年生を選抜して行っています。

齋藤委員

分かりました。インターネットでこの調査を見てみたのですが、調査項目が75項目と多すぎる点が気になります。

今、大庭委員がおっしゃったように、「学校が楽しくない」という背景が分からないので、その理由を調べるのが必要ではないでしょうか。私がこれまで行った調査では、「学校が楽しくない」と答える理由で一番多いのは友達関係、それに勉強・成績、さらに学校の先生との関係も影響しています。また「自分がダメ人間だと思ったことがあるか」との問には、小・中学生の40%ぐらいが「ある」と答えます。

「学校が楽しくない」と答えるその背景には様々な要因が考えられるので、もっと益田市の子どもたちの実態を把握する必要があると考えます。

それから、ここには僅かなデータしか載っていないのですが、75

項目の中で私が気にかかるのが、社会性や自立性というキーワードです。特に地域との連携や自然との触れ合いを見てみると、30%以上は自然との触れ合いはやってないと答えていますし、多いところは40%ぐらいの値が出ています。

また、地域の大人との接触の度合いに関しては、多分3割ぐらいしか益田でも持っている子どもたちはいないのではないかと思います。

もちろん成績は大事ですけども、今の日本の若者は人間関係が作れないというのが世界でも最悪の値となっています。なぜ人間関係がうまく作れないのか、その要因は何なのかなどを把握する必要がありますし、益田市教育委員会として、これらの調査から見える課題にどう対処していくの、その方向性を打ち出していくことが求められると考えますが、いかがでしょうか。ありがとうございます。

松元参事

ありがとうございます。ご指摘のとおりです。相関を見ることに限っては、課題意識と仮説を持ってやっていきたいと思っています。単独で見ていると課題はばらばらに見えますが、関連性があると思いますので、引き続き相関を見ていきたいと思っています。齋藤委員さんのご指摘を受けて、今後どのような対策ができるか、原因を考えながら取り組んでいきたいと考えています。ありがとうございます。

中野委員

3ページなのですが、小学校6年生の算数に関してですが、説明の中で過去5年間ずっと県を下回っていたということがありましたけども、今回は全国に対して同水準の値だったということでした。恐らく算数の県の強化指定校等の受けた学校があったと思いますが、先生方の多大なるご努力のおかげでこういった結果が出てきたというのは間違いないと思います。全てをマイナスイメージで捉えるだけではなくて、やはりそういったところでプラスに考えることも重要なのではないかと思います。

また、中学校の教科に関しても、差が徐々に縮まってきたという説明も受けていますので、実際に現場のほうではいろいろなご尽力をしてくださっているということが成果として表れているのだろうと思っていますので、また学校現場の子どもたちに対する教育の強化を期待していきたいと思っています。

全体的に、益田市においては令和3年と4年の数値が出ていますが、県や国は令和4年しか数値が示されていません。私が知りたいのが、令和3年と比較して減少していた時、じゃあ全国でも減少傾向なのか、県では上昇傾向なのかということです。そういったことも含めて見ていかないと、一概に益田市だけが減少している、増加しているということだけを見ても、なかなか答えとして出せない

いのではないかと思うのです。ですから、そういったものもありましたら全体像が見えてくるのではないかと思いますので、まだ途中経過の速報と聞いておりますので、またそういったものも比較検討する上でお示しいただければと思います。よろしくお願いします。

以上です。

松元参事

ありがとうございます。おっしゃったように、問題ももちろん違いますし児童・生徒も違いますので、傾向という点では3年度と4年度ではなかなか簡単に比較できないのではないかと考えております。ですから、中野委員ご指摘のように複数年の県、複数年の全国との比較という形で示していきたいと思います。ありがとうございます。

高市教育長

本件につきましては、先ほど室長より報告がありましたとおり、まずは結果を全体的に速報という形でまとめただけというものになるものであります。先ほども齋藤委員からもご指摘ございましたけれども、データをクロス分析等々して、もう少し現状について解析をし、また原因を見つけていくという作業を教育委員会内で今行っているところでございます。そういったものも整理をしつつ、またその結果を踏まえて進めていきたいと考えております。先ほども大庭委員からもご指摘いただきましたけれども、各教科の授業が分からないという生徒が非常に多い状況ですので、原因やそれを改善するための方策等も含めた形で、また市としての今後の対応策をまとめてご報告、ご審議いただければと考えてございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

高市教育長

それでは、以上をもちまして定例会を終わります。

次回は9月30日に定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 10時50分＝

